

2月13日 ゲスト卓話



川口西ロータリークラブ会長
片岡 暎子 様

本日はお招きいただき、ありがとうございます。川口西ロータリークラブの片岡暎子です。

英語でbreak the ice、氷を砕くと言う意味ですが、堅苦しい雰囲気をつくろがせるために最初に冗談を言ったりします。そういうのが、苦手なもので、自己紹介代わりに自分の名前の読み方について、話そうと思います。日本語の日の隣に英語の英と書いて、テルと読みます。いかにも翻訳者らしい名前で、またロータリー財団において米国本部と日本のロータリアンの懸け橋となるのにふさわしい名前です。との挨拶からスピーチを始めています。

あるクラブで、いつものように、そんな話から卓話を始めました。終了後、出席者のロータリアンから、こんなことを言われました。

中国唐の時代に、帝王がお妃と庭を歩いていたとき、杖で庭の一部を掘ったところ滾滾と水が湧き出してきて、その水が万物を照らし出した、という故事があります。そのことを指す言葉にテルという私の名前の漢字が使われ、テルの意味は『余すことなく照らし出す』という意味だと聞きました。ロータリアンは、博学の方が多くて、いつも勉強になります。

次年度の国際ロータリー会長のゲリー・ホワン氏のテーマが『Light up Rotary』

『ロータリーに輝きを』と発表されていますが、テーマに沿った名前とも言えます。

皆さまは地元における事業などの実績を評価され、誘われてロータリークラブに入会したと思います。職業においては、その道の専門家ですが、新しい手続要覧が発刊されたこともあり、ロータリーの基本的なことについて、多分、皆さまと違った観点でお話しようと思っています。

私、ロータリーを仕事とし、ロータリーの膨大な資料を読み、翻訳して、いわば書籍からロータリーを学びました。いろいろな人間関係抜きで、ロータリーの理念だけ見つめてきましたので、ロータリーには感動しました。

翻訳室に在職中、ロータリー出版物を翻訳していましたが、そのほかに大口寄付者にインタビューし、その日本語版と英語版を作成するというのもしていました。その経験があったため、翻訳室から財団室に異動になったと思います。

大口寄付者はロータリーを信頼し、ロータリーを大好きな人ばかりで、こういう方とロータリーの話をしているうちに自分もロータリーが好きになりました。

ある大口寄付者は、「医師は留学の機会が多いが看護師は留学の機会にそれほど恵まれない、だからその奨学金の財源として150,000ドルを寄付したい」、と書いてくれました。ロータリアンは思いやりのある心の広い人だと感じました。

ある大口寄付者は、「ロータリーはいろいろな夢や理想を語る。それを絵に描いた餅にしたくないので寄付する。」と言いました。ロータリアンは現実的なのだと感心しました。

翻訳室から財団室に異動になり、ロータリアンと接触する機会が多いため、国際ロータリーからロータリークラブに入会するよう言われ、川口西ロータリークラブに入会しました。いざ現実のクラブに入会しますと、現在、クラブ会長ですから、ことさら会員増強が必要になります。本来、クラブが毅然として会員を選ぶはずなのに、ひたすら入会の勧誘をしている現実が寂しくもあり、悔しくもあります。

会員増強は本来 share Rotary で、ロータリーの素晴らしさを他の人に伝えるということだと思います。現実には、クラブの運営とか奉仕活動のために、人手も財政運営も必要というところでしょうか。ですが、会員を誘うとき、新会員にロータリーのよさをどう伝えるべきでしょうか。

先日、スーパー・プレゼンテーションと言うテレビ番組を見ました。40年くらい前でし

ようか。ロータリーの資料を翻訳していましたがプレゼンテーションという言葉に出会いました。何か贈呈するのかしら、と思いましたが、それでは意味が通じません。そのとき、米国の大学を二つ出た上司に質問したら、講演、スピーチという意味だと教えてもらいました。現在は、そのまま、カタカナでプレゼンテーションを使って、理解される時代のようです。

その番組で、ハーバート大学のマイケル・サンデル教授の話が興味深かったので紹介したいと思います。

市民生活が市場主義に支配されてはならない。という難しそうなタイトルですが、要するに、お金で何でも買える社会を望むか、お金では買えない道徳的、市民的な価値の存在する社会を望むか、という極めてロータリー的な問題を取り上げていました。

もちろん、日本人は、お金で何でも買えるとは思っていないでしょう。ですが、こういった問題がとりあげられるほど、アメリカはお金で何でも買える社会になっている、と考えたほうがよいでしょう。カリフォルニア州の刑務所では、お金を余計に払うと、グレードアップされた居心地のよい独房に入れると紹介して、その映像まで映し出されていました。

では、お金で何でも買える社会はなぜよくないのでしょうか。お金で何でも買えるといっても、豪華な家に住み、贅沢な暮らしをするだけなら、大して問題にはなりません。ですが、それだけでは済まず、教育、医療にも格差は及びます。当然のことながら、お金のいる人、ない人のグループが生じ、その範囲内で付き合います。

サンデル教授は、いろいろな経歴やいろいろな職業、金持ちや貧しい人が交流する中で、ぶつかったりしながら、その中で互いに認め合うことを学び、みんなに共通の価値に到達し、社会的一体感が得られる社会が望ましいのだと言う話をしていました。私は、まるで、ロータリーの話の聞いているような気がしました。

ロータリークラブには、お金で買えない価値がある。と信じて皆さま入会したと思います。いろいろな職業の人がいて、年齢層も健康状態もさまざま、多分、考え方も差があるでしょう。この交流の中から、共通の価値を見いだせないかと思います。これ、現実の利益に結び付かないので、多分、説得力はないかもしれませんが、でも、充実感を得られるでしょう。

私、個人的には、充実感だけで十分だと思っています。

かなりロータリーに詳しいロータリアンでも、ロータリー財団については大抵の方が初心者です。そのため、ロータリー財団セミナーのため、ほとんど日本中の地区やクラブをまわりました。これが、ロータリーにおける私の財産だと思っています。

ですが、現実には小さなクラブに入会すると、そういった機会は非常に少ないです。ロータリーは、100年以上も続いた団体です。アメリカ生まれのロータリーが世界に広がり、根をおろしてきた、そのためだけでもロータリーを学んではどうでしょうか。これならお金がかかりませんし、立派なクラブ奉仕事業になります。大きな奉仕事業をして社会貢献、国際貢献をするだけがロータリーではありません。

2013年規定審議会が終わり、新しい手続要覧が出版されました。手続要覧は規定審議会の改正事項だけを入れたわけではありません。一番新しい手続要覧は2013年版です。その前は2010年版です。3年に一度規定審議会が開かれ、規定が変わりますので、3年に一度手続要覧が改訂されます。

2010年版の手続要覧の表紙には、A reference Manual for Rotary Leaders ロータリアンの手引きと記載されています。

2013年版の手続要覧の表紙は、A Rotary Policy Reference Guide,ロータリーの方針の参照指針くらいの意味ですが、日本語版は相変わらずロータリアンの手引きです。英語がManualからGuideに変わったにもかかわらずです。これは翻訳者のミスだと思えます。

内側にはロータリーの方針の手引きとあります。

手続要覧の裏表紙を見ますと、ロータリーの歯車の左隣にRotaryとあります。これがロータリーの新しい視覚的イメージ、visual identityですが、私たちが襟につけるバッジはそのままよいということです。

右下に035 - JA - (1013) とあります。手続要覧の出版物番号が035です。米国ではいろいろな国籍の人が働いていますので、誰でも分かるように出版物には番号をつけています。JAは Japanese 日本語と言う意味です。(1013) は、2013年10月に作成されたと言う意味です。

手続要覧には白いページと黄色のページがあります。黄色のページは、組織規定で、国際ロータリーやロータリークラブ、ロータリー財団の規定が載っています。この黄色のページは、原則として規定審議会だけが変更できます。

黄色のページでも、規定に優先順位があります。一番強いのが国際ロータリー定款、次が国際ロータリー細則と標準ロータリークラブ定款、一番弱いのが推奨ロータリークラブ細則、ロータリー財団の定款細則です。

定款は憲法です。細則は補うものだと考えて下さい。ロータリークラブは国際ロータリーに加盟しているのですから、まずはさておき国際ロータリーの憲法には従わなければなりません。国際ロータリーの細則にも従わなければなりません。皆さま、ロータリークラブに入会した以上、ロータリークラブの憲法である標準ロータリークラブ定款に従わなければなりません。

推奨細則は、推奨ですから拘束力が弱くなります。昔の手續要覧では白のページでした。ですから、ある意味で黄色のページと白のページの境目の規定とも言えます。ロータリー財団は国際ロータリーが法人会員、一人株主のようなものですから、拘束力は弱くなります。

規定ですから、しなければなりません。すべきですと言う言葉が頻繁に出てきます。日本語訳では、その強度が分かりにくいのですが、shall, must, should の順で、強さが表現されています。

例会を毎週開かなければならない。は shall です。例会を規定通り開催しなければ、国際ロータリーから除名されます。例会の出席率は50パーセントを超えていなければなりません。はmustです。出席免除などの救済措置があります。自分で自分を勝手に出席免除にするというわけにはいかず、クラブ理事会の承認を必要とします。各会員は所属クラブの例会、所属クラブの奉仕プロジェクトおよびその他の行事や活動に参加するべきものとする。は should です。自分のクラブに出席できない場合、メイクアップすればよいだけです。自分の一存でメイクアップできます。要するに、shall は、守らなければ罰則がくるくらい強い拘束力があります。Must は、承認を得れば、必ずしも守らなくてもよいです。Should は、抜け道があります。

この三つの助動詞は、ロータリーの規定の基本ですから、ぜひとも覚えて下さい。

規定にどのくらいの拘束力があるのか調べるとき、その規定が国際ロータリー定款でしかも助動詞が shall だと、従わないと除名されるなどの制裁があると覚悟しなければなりません。

そのへんを英語で確認すると、ロータリーの規定の分かりにくさが消えていきます。

昔のロータリアンが英語版と日本語版の手綾要覧をもっていたのは、翻訳では表現しきれないところがあるからです。

翻訳は、例えて言えば、着物の柄を裏から見るようなものだ、と言われます。裏側から見ても、表の柄は大体分かります。でも表から見るのとは印象は違うでしょう。

先のスーパープレゼンテーションで赤ちゃんは語学の天才、というテーマを扱っていました。アメリカ人の赤ちゃんに、中国人が中国語で話しかけ続けると、この赤ちゃんは、脳の中で、中国語のデータ収集をして、中国語の発音をマスターできるそうです。ですが、これを音声のテープで話しかけると、同じ成果をあげられるでしょうか。うまくいきません。映像の出るビデオではどうでしょうか。やはり、うまくいきません。そこに、人間の役割があるのです。

ロータリーも同じだと思いました。ロータリーの資料に、情報は人間にくるんで伝達せよ。という文章がありました。資料を渡すだけでは不十分でしょう。分からないことも出てくるでしょう。昔は、炉辺会合で、クラブの長老が話したものです。

炉辺会合は、英語で Fireside meeting です。この言葉、いかにも、ロータリーがシカゴ発祥であることを示しているような気がします。シカゴの郊外のエバンストンという町にロータリーの世界本部があります。私、そこで、マイナス10度を体験しました。本当に寒いです。ですから、火の傍で語り合うと言うのは、心まで温かくしてくれたらう、と思います。

ですが、ロータリーが世界に広がるにつれ、夏に炉辺会合をするのは暑苦しい、また、常夏の国もある、と言うことで、英語そのものが informal meeting に変わりました。直訳して非公式会合と訳せば、誰も炉辺会合のことだと想像もできないでしょう。膝を交えて語り合う、と言うニュアンスを残したくて、座談会と訳しました。ですが、ロータリアンは英語に強い人が多く、informal meeting の訳が座談会では誤訳だと、言われ、さりとて非公式会合と訳しては誤訳とは言われなくてもいいかもしれませんが、意味が通じないと思い、本来、ロータリアンの自宅に集まる会合ですので、家庭集会と訳し直しました。事実、home meeting という言い回しもありました。ですが、炉辺会合、座談会、家庭集会、すべて、死語に近いかなと思ひもあり、その心だけ生かすものとして川口西クラブ

でロータリー・カフェを始めました。

肩肘張らず、ロータリー体験やロータリー観を語り合える場になるとよいと願って、例会で毎週のように宣伝していますが、中堅のロータリアンと他クラブの会長、ガバナー補佐は出席しても、新会員が出席しないのです。例会に出席しているだけでは、ロータリーの基本すら把握できないだろうと思っています。

私、次年度、地区 R L I 運営委員なのですが、R L I は討論が主体で、初心者向けではありません。川口西の会員に出席してもらったら、何も発言できませんでした。とか、恥をかいてきました。とか言っていました。

ガバナー・エレクトは国際協議会に出席するのですが、その場合、まず、スピーチを聞きます。その後、日本の場合、34地区ですから、17人ずつに分かれて R L I のような討論をします。これなら合理的だと思います。なぜ、最初にファシリテーターというかモデレーターと言うか、そういった人が概況を説明してから討論に入らないのかなといったも感じていました。

手続要覧の中身を読んでいきますと、Manual から Guide に変わったのが納得できます。手続要覧の内容を一部、紹介します。

推奨クラブ細則が改訂されました。推奨細則は黄色のページにありますが、必ずしも規定審議会で改正されるわけではありません。

ロータリーには国際ロータリーとロータリー財団と便宜上二つの組織があります。皆さまは国際ロータリーに人頭分担金を支払います。ロータリー財団には寄付をします。

国際ロータリーの方針を変えるのが国際ロータリー理事会で年4回開催されます。

ロータリー財団の方針を変えるのがロータリー財団管理委員会で、やはり年4回開催されます。

要するに白のページと推奨細則、財団定款細則は年8回改正されうることです。その改正を知る手段がウェブだけに載っているロータリー章典とロータリー財団章典です。これがロータリーについて学ぶ基本資料です。

新しい推奨クラブ細則はご覧になりましたか。川口西では、他クラブの希望者も招いて推奨細則に関するロータリー・カフェを開きました。

新しい推奨細則の改正の例を挙げます。

クラブ会長の任期は1年だか、副会長、理事、会計、幹事、会場監督の任期はクラブで定めることができるようになっていきます。従来は委員会だけが3年任期とかありまし

た。クラブが望めば幹事の任期を3年でも5年にでも変更することも可能になりました。

議事の順序も削除され、クラブで柔軟に議事の順序を決められます。川口西は新しいクラブ細則をつくりました。議事の順序も開会の点鐘から始まり、閉会の点鐘で終わるようにしましたし、会長以外の任期も1年として、再任を妨げない、と穏やかな改正にしました。

私、次年度、クラブ幹事を務めます。昨年の8月にロータリーのホームページが一新されました。私、ロータリークラブ・セントラルなどの報告を事務員まかせにせず、自分でしています。その流れを続けたくてクラブ幹事になることにしました。

推奨細則では、初めて、入会金がゼロでもよい、と書いてあります。実際はゼロのクラブはあるでしょうが、正面切ってゼロでもよいとは書かなかったのです。

私、川口西クラブで、いつも、この調子で話していますので、難しいことばかり言う、とよく言われています。現実のロータリアンに合わせるかのように規定は緩められています。規定を緩める、というのは英語で relax ですが、くつろいでロータリーを楽しむのも悪くないですが、規定を緩める都度、日本では、会員が減ってきました。

手続要覧の白のページは三つに分かれています。組織構造、ロータリーの使命の遂行、国際的会合の三つです。2010年版は、管理、プログラム、国際的会合の三つでした。国際的会合だけが共通していて、管理が組織構造、プログラムがロータリーの使命の遂行になりました。

ロータリーはよく Best Practices と書く言葉を使います。2013年手続要覧ではカタカナでベスト・プラクティスと言っています。意味としては最高の実践方法と言った意味で、成功事例といったところですか。ですから、理論ではないので、分かりやすいのです。

例えば環境保全により、地球の温暖化を食い止めよう、と言う場合のベスト・プラクティスは、木を植えましょう。リサイクルしましょう。になり、分かりやすくなります。

では、活気あるクラブのベスト・プラクティスは何かと言いますと、新しい手続要覧では11くらい挙げています。

もちろん、親睦行事や研修会を開く、などと言っていますが、その一つが「現在のクラブの慣習を反映させて細則を修正する」なんです。規則を守るのではなく、現況に

合わせた規則をつくる、というのです。クラブの裁量を大幅に認めているわけです。ですから、手続要覧が manual から guide になったのです。もちろん、ロータリーの規定は良識だけでよいと思っています。

東日本大震災の折、在米ジャーナリストの高濱 賛（たかはま・たとう）氏の書かれた「米メディアが見た東日本巨大地震」を読まれた方がいるでしょうか。その中でニューヨーク・タイムズでかつて東京特派員を務めたコラムニスト、ニコラス・クリストフ記者の文章を引用しています。

見出しは、「Sympathy for Japan, and Admiration」（日本への同情、そして尊敬の念）です。「事を処するに当たって日本の一般市民が示した弾力性とストイシズム、規律正しさには驚くべきものがある。日本語に『Gaman』（我慢）という言葉がある。

英語では同じ意味の言葉はないのだが、あえて言えば『Toughing it out』といった意味だろうか。日本の被災者は驚くべき Gaman をもって、秩序を守っている。あの大地震の後、水や食糧を求める長い列に黙々と並ぶ。自分のことは傍らに置いて、他人を助ける。商店から商品を盗み出すなどといったことは論外だ」

元ロータリー交換学生の米国人女性が、私の住む大宮で英語教師をされていて、彼女と、この Gaman の英語は何がふさわしいかと話しました。私など単純なものですから、我慢は patience と習ったと言いましたら、patience はバスがなかなか来ないので時計を見ながら待つようなときに使う軽い意味で使うので、東日本大震災の避難所の状況にはふさわしくない、と言っていました。我慢の英語を辞書で引くと、bearing, endurance, patience, tolerance ができます。先ほどのアメリカ人記者の Toughing it out は出ていないのですが、Toughing it out は、耐えて耐えて耐え抜くと言った意味でしょうか。

元青少年交換学生のアメリカ人女性に聞いてみました。英語の Toleration は我慢に近いでしょうか、と。Toleration は Accept even if I don't like something たとえ不本意であったとしても受け入れる。という意味であろう。と言っていました。

皆さま、もう私が何を言いたいのか、分かった方もいるかと思えます。この Toleration は、ロータリーで寛容と訳されています。

ポール・ハリスが、1911年のロータリアン誌創刊号で、書いたエッセーで、こう言って

います。私が、大きなコロシアムに立ち、あらゆるロータリアンを前にして一言述べる機会に恵まれたとしたら、私は何のためらいもなく、あらん限りの声で叫ぶでしょう。『寛容！』と。

私、この文章を翻訳するとき、自分が英語を読んで感動した文章をどうやって、日本語にできるか考えました。私、一度、ロータリークラブを退会したのですが、再入会したのは、誘われたこともあります。この言葉が頭に残っていたからです。

私がこのポール・ハリスのエッセーで感動した箇所をもう一つ挙げます。

ロータリーは、クラブの連合体という史上前例のないものです。自らの運命に責任を負う創意あふれる人が集まった、ということを除いて、ロータリーには何のルールもありません。羅針盤の発明前、船乗りが、星を見ながら、来知の海に乗り出したように、ロータリーの先駆者たちは、大昔からの人間の英知とも言うべきルールを守り、危険をはらむ未知の厳しい状況の中で巧みに船を進めてきました。私たちがこれからも良識ある寛容という確かな航路、また、他人の信念を思いやる心から逸脱しないことを願っています。良識がよりどころという連合体は素晴らしいと思います。ロータリーの規定は分かりにくいとよく言われます。ですが、根底は良識に尽きると思います。

但し、ポール・ハリスがこの文章を書いたのは1911年である。ということも念頭におかなければなりません。この後、2度の世界大戦があり、国際団体のルールと言うものが築かれていきます。ロータリーは随分複雑となり、変わりました。ロータリーの未来はどう進むかわかりませんが、原点はいつまでも忘れずにいたいと思っています。

ご清聴ありがとうございました。